

2016年4月14日

株式会社KADOKAWA 文芸・ノンフィクション局
第1編集部 横溝正史ミステリ大賞事務局

第36回 横溝正史ミステリ大賞選考結果のお知らせ

本日4月14日(木)、第36回 横溝正史ミステリ大賞(主催=株式会社KADOKAWA)の選考会が行われ、選考委員の審査により、下記のように決定いたしました。

【第36回 横溝正史ミステリ大賞】(金田一耕助像、賞金400万円)

『虹になるのを待て』 木逸 裕(きいつ・ゆう)

(東京都 町田市 出身)

選考委員:有栖川有栖・恩田 陸・黒川博行・道尾秀介 (敬称略、写真左より五十音順)

※撮影:ホンゴユウジ



有栖川有栖



恩田 陸



黒川博行



道尾秀介

横溝正史ミステリ大賞は400字詰め原稿用紙350枚～800枚の作品を対象とし、今回応募された196作品の中から最も優れた作品に与えられます。選考会は本日4月14日(木)、午後5時よりニューオータニ над万にて開かれました。受賞作の梗概、受賞者の略歴は別紙のとおりです。

贈呈式および祝賀パーティーは、2016年11月25日(金)に、帝国ホテルにて開催します。なお、選評は2016年6月12日(日)発売の「小説 野性時代7月号」に掲載予定です。

受賞作は2016年9月末に、株式会社KADOKAWAより単行本として刊行の予定です。

■横溝正史ミステリ大賞公式サイト <http://www.kadokawa.co.jp/contest/yokomizo/>

<横溝正史ミステリ大賞梗概>

『虹になるのを待て』 木逸 裕

2015年のクリスマスイブ、渋谷でドローンを使ったテロが発生した。首謀者は水科晴という女性。彼女は自作した“渋谷でゾンビを撃ち殺す”オンラインゲームとドローンを連携させ、何も知らないプレイヤーに渋谷の群衆を襲わせ、最後には自殺を遂げる。

それから10年経った2025年。人工知能の研究者・工藤賢は、人工知能と恋愛ができる人気ソフト『フリクト』に、アイドルを人工知能化して搭載するプロジェクトに携わる。まず試作品を作ることになり、アイドル役として白羽の矢が立てられたのは、水科晴。謎めいたテロ事件を起こした水科晴は、この10年間でカルト的な人気を得ていた。

ソフトに搭載する人工知能に必要な情報を得るため、工藤は水科晴について調べ始める。水科晴の人生に触れるうち、次第に彼女に惹かれていく工藤は、彼女に「雨」と呼ばれる恋人がいたことを突き止めるが、「晴の調査を止めろ。さもなければ殺す」という謎の脅迫を受けることに。やがて晴の遺した未発表のゲームの中に、謎につつまれた彼女に迫るヒントを見つけ、人工知能は完成に近づくのだが……。

<著者略歴>木逸 裕 (きいつ・ゆう) ※ペンネーム

本名・筑城裕介 (ついきゆうすけ)。1980年11月1日生まれ。35歳。男性。東京都町田市出身。東京都足立区在住。学習院大学法学部卒。現在、自営業。

以上

【本件に関する報道関係からのお問合せ先】

株式会社 KADOKAWA 文芸・ノンフィクション局

第1編集部 横溝正史ミステリ大賞事務局

オフィシャルサイト <http://www.kadokawa.co.jp/>